

2013大学入試センター研究開発部シンポジウム

## 入試研究から見た高大接続

### 指定討論

北海道室蘭栄高等学校  
教諭 工藤 弘一

1

## 高校一年次の勉強時間 ～大学入試は、彼／彼女らの学習動機になり得るか～

### 【学習時間の現状】

ベネッセによる調査データから

- ・偏差値55未満の《**学力中間層**》→勉強時間が大きく減少  
学習の動機付けが難しい  
←勉強時間が少なくても「入れる大学」が存在
- ・偏差値55以上の《**学力上位層**》→勉強時間は下げ止まり  
学習の動機付けが機能する  
←国公立大学・難関中堅私大に合格可能

2

### 【入試方法志向の影響】

#### 指定校推薦に対する受け止め方の違い

- ① 進学中堅校の**指定校**・公募・AOが約37%  
・進学中堅校と**進学一番手校**とは、進路指導の軸に違い  
・進学校では「**入れる大学**」より「**入りたい大学(入れたい大学)**」
- ② 指定校のプラス効果＝テスト期間の学習時間が多い  
しかし【**メリハリ型**】では、定期考査の成績は何とかなるが、  
「**総合的な学力**」は身につかない。
- ③ 一般入試には「総合的な学力」が問われる  
→予習・復習中心の家庭学習が必要(しかし、4時間の壁?)

3

### 【動機づけ研究の限界】

#### 入試改革論議＝時間の制約を考慮していない

- ① 帰宅後の限られた自由時間(高校生は多忙)  
・細切れの時間を活用して学習している現状
- ② 高校における部活動・学校行事の存在意義(知徳体のバランス)  
・進学校で部活動や学校行事の時間を、これ以上減らすことはムリ  
(ただし、部活動の時間管理を徹底していない高校が存在するのは確か)
- ③ 「複数回テスト」は、高校現場を混乱させる  
・3年生1月にセンター試験があることを前提に学習・進路指導している  
・複数回テスト実施だと、計画的な部活動・学校行事が不可能に  
・公平さに欠ける(中高一貫校と公立校とは教育課程が違う)

4

## 受験生から見た「多様化」の意義 ～東北大学型AO入試と一般入試～

### 【東北大学AO入試のコンセプト】

- ① 学力重視のAO
- ② 第1志望の受験者のための特別な機会(特別枠)
- ③ この2つを支えるオープンキャンパスなどの広報活動

5

### 【東北大学合格体験記(本校卒業生)】

#### 「志望大学に惚れ込む」

合格の最大要因は、東北大学に惚れ込み、絶対に行きたいという強い気持ちを持って最後まで諦めなかったことです。早くから志望したことで過去問対策も十分にでき、オープンキャンパスや説明会などにも多く参加でき、入試会場で見たとのことある先生がいたりもして落ち着けました。AOは落ちてしまいましたが、大学のことを調べたり将来のことを考えたりするよい機会となり、モチベーションのアップにつながりました。

第一志望、一般入試までを見通して挑戦、AO不合格で再チャレンジ  
東北AOのコンセプトに一致している

6

【東北大学AOが高校から支持される理由】

◎進路指導(受験指導)の観点

- ・志望理由を明確にさせて受験に向かわせる  
(なぜその学部か、なぜその大学か)
- ・第一志望を諦めずに最後まで粘り強く学習に取り組ませる
- ・「受験は団体戦」

◎東北大学AOのコンセプト

- ・一般入試と求める学生像に違いがない
- ・学力重視
- ・第1志望のための特別な機会

→両者が無理なく重なる→安心してAO受験を勧めることができる

7

入学者は多様化したか  
～筑波大学の推薦入試・AC入試～

【AC入試】

「高校成績が良好」であること ≠ 研究意欲旺盛  
「学力」=主体的に学ぶ力  
「受験は個人戦」  
AC=学校・教師が手をかけられない入試？

\* 高校現場は、ACを受験できる生徒を“育てる”ことを目標にしたい  
(眠っている興味関心を引き出し、主体性を伸ばす環境作り)

8

【東北大学／倉元先生への質問】

- ・選抜に凝りすぎる必要はない
  - ・学力が同等なら、意欲が高いほうが伸びる
- 一般入試でも「研究意欲」は担保できている？

9

【筑波大学／島田先生への質問】

1. SSH(スーパーサイエンスハイスクール)の課題研究は、「為にする研究」か？
2. 「教師の貢献度」を的確に見分けることができるか？

10